



JAPAN HANGGLIDING FEDERATION

# JHFレポート

5・6月号  
2003年

(社)日本ハンググライディング連盟 発行

<http://jhf.skysports.or.jp/>



## 6月通常総会開催、二度目の役員選挙を実施。

6月21日(土)午後1時から5時まで、東京都港区新橋の航空会館会議室において、2003年度のJHF6月通常総会を開きます。議案は2003年度補正予算の決定について、役員選挙による選任について等。総会の場で今年二度目の役員選挙投票を行う予定です(2ページをご覧ください)。傍聴を希望する方はJHFホームページから申込書をダウンロードし、事務局へ郵送してください。会場の都合で先着10名に限ります。



## 水沼典子さんが「うつのみや市民賞」を受賞。

パラグライディングの競技選手として、また教員として活躍する水沼典子さんが、2月19日、栃木県宇都宮市役所で行われた「平成14年度第2回宇都宮市表彰式」で「うつのみや市民賞」を受賞しました。この賞は、文化やスポーツの分野で全国的に活躍した団体や個人に与えられる賞です。受賞式では水沼さんを含む、3団体・12名に福田富一宇都宮市長から表彰状が授与されました。

写真1: 表彰状を受ける水沼さん。大会とは勝手が違う?



## PWC茨城、スコッティ・マリオンが鮮やかな勝利。

PWQ パラグライディングワールドカップ 茨城が3月23日から30日まで茨城県八郷町で開かれました。19ヵ国129名が参加、3本の競技が成立。2003年PWC第一戦を勝ち星で飾ったのは、アメリカのスコッティ・マリオン選手。日本勢では只野正一郎選手が健闘し総合6位に、水沼典子選手が女子4位に入りました。ポルトガルでの世界選手権まであと僅か。今年のPG競技界はどんな展開に?(4ページをご覧ください。)

写真2: PWC茨城に参加した日本のパイロットたち。



## 教員更新講習会に19名参加。

スポーツ振興くじ助成金を受け、3月12日・13日、栃木県のスカイパーク宇都宮でJHF教員更新講習会を開催しました。この講習会は、3年に一回の教員(助教員)技能証更新時に、機体の情報や安全に関する情報を教習検定委員会が提供しようというもの。2回目の今回は19名が参加しました。(11ページをご覧ください。)

写真3: グランドハンドリングの基礎テクニックを徹底研修中。



## JHFが学生リーグ優勝旗を提供。

学生フライヤーのリーグ戦、HG学生リーグとGリーグ(PG)の優勝旗ができました。これから伸びていく学生を応援しようと、JHFが製作費用を負担した。3月の両リーグ最終戦表彰式で、JHF理事から各優勝チームに授与しました。

写真4: HG学生リーグ2002年度優勝、日大EPOIに優勝旗を授与する伊賀理事。

写真5: 優勝旗を囲んで。Gリーグ最終戦参加者と関谷常任理事。



JHFレポートは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。

JHFレポート 5・6月号

もくじ

P2-JHF3月通常総会報告 / JHF役員選挙公示	P3-渡邊さんが遺したものと	P4-PWC茨城報告「茨城の空に百花撩乱」
P6-ココが知りたい!パイロットのためのトレーニングPG編	P8-県連だより	P9-県連ニュース
P10-委員会の動き	P11-教員更新講習会 / 事故報告	P12-CIVL報告 / 理事会ダイジェスト / 理事活動報告
P13-@sky		

# 2003年度の事業計画が決まりました。

## JHF3月通常総会の報告

2003年3月11日(木)午後1時から5時まで、東京都の羽田空港ターミナルビル内ギャラクシーホールで、JHF3月通常総会を開催しました。正会員(都道府県連盟の代表)47名中、出席者35名、委任5名。議長には高知県ハング・パラグライディング連盟理事長の毛利謙作氏が選任されました。



3月通常総会で挨拶する朝日和博会長

### 第1号議案

2003年度事業計画(案)の決定について賛成39票、反対0票、棄権0票で、2003年度事業計画の理事会案を可決承認。

これによって、2003年度のJHFは「日本のハンググライディング界を統括し代表するスポーツ団体として、安全で楽しいハンググライディングの普及及び振興を図る。もって全ての人の心身の健全な発達に寄与する」ことを基本的方針として、以下のような事業を展開していくことになりました。

- (1) 事故の再発防止
  - 情報の共有化と公開
  - 海外からの情報収集と公開
  - エンジン付きハンググライダー/パラ

グライダー愛好者たちへの事故防止活動(他団体との協調活動を含む)

- (2) 普及活動の推進
  - 保険制度の導入(傷害保険、指導者保険)
  - ハンググライディングフライヤーの障害保険料の改善活動
  - 優良スカイレジャーエリア制度の普及
  - スクール・エリア登録制度の向上
  - 行政管掌行事への働きかけ
  - 宣伝普及活動の強化
- (3) 活性化対策委員会の答申案の検討と実現化
  - 定款関連
  - 事務局体制
  - 都道府県連盟関連
  - 理事会運営
  - 指導者への啓蒙活動

## JHF役員選挙公示

公示日 2003年(平成15年)4月11日

(社)日本ハンググライディング連盟 選挙管理委員会 委員長 内田孝也

「社団法人日本ハンググライディング連盟定款」第13条(役員を選任)の定めるところにより、2003年(平成15年)二度目の役員選挙を「JHF役員選挙規程」に従って公示致します。

選任役員定数	理事 0名以上5名以内	監事 1名以上2名以内
立候補受付開始	2003年(平成15年)4月11日(金) 午前10時	
立候補締切日	2003年(平成15年)6月14日(水) 午後5時 (立候補届が郵送の場合は、当日消印有効とする)	
立候補者公示日	2003年(平成15年)6月30日(金)	
選挙投票日	2003年(平成15年)6月21日(土) 社団法人日本ハンググライディング連盟総会にて	

なお、立候補締切に先立つ書類の事前判定日(選挙規程第44条)は、2003年(平成15年)6月8日(木)とします。JHF役員選挙規程に従い、この日までに提出された立候補届に不備があった場合、関係者に通知のうえ締切日まで修正を受け付けます。

### 二度目の役員選挙を行います。 選挙管理委員会

6月通常総会へ向けたJHF役員選挙の選挙公示をいたしました。

これまでに3月総会で実施された投票の結果、理事6名が選任されています。監事は候補者がなかったため、現在前任者が選挙規程に基づく補填役員として職務にあたっています。

JHF定款に明記された役員最低数からすると、理事6名監事0名でも法人として問題ではありませんが、選挙規程に定められた補欠選挙ならびに選挙規程にした

がった総会決定による追加役員選挙を実施するものです。

この選挙の選挙定数は、役員最大定数までの不足数となり、選任される役員の任期は、3月総会で選任された役員と同じく2005年(平成17年)3月までとなります。

全国47都道府県連盟には、既に必要書類を送付していますので、候補者の自薦・他薦や、立候補の仕方など、お住まいの都道府県の連盟にご相談されるかJHFホー

ムページに用意した、選挙のページをご参照ください。

選挙管理委員会では、選挙について、立候補の仕方などのご相談を含め、お問い合わせを受け付けております。どうぞ、ご利用ください。

選挙管理委員会へのご連絡はJHF事務局まで電話、ファクス、電子メールで。

TEL.03-5840-8311

FAX.03-5840-8312

E-mail:senkyo@jhf.skysports.or.jp

### 第2号議案

2003年度収支予算(案)の決定について賛成38票、反対1票、棄権0票で、2003年度収支予算の理事会案を可決承認。(編集注:6月通常総会終了後、補正予算についてお知らせします。)

### 第3号議案

役員辞任の承認について賛成39票、反対0票、棄権0票で、全理事監事の辞任を可決承認。前回選挙が遅れたため、役員任期は2003年6月までですが、JHFの運営を円滑に進めるにあたり、任期を従前の3月に正すため、役員全員が3月いっぱいまで辞任することになりました。

### 第4号議案

役員選挙による選任について「JHF役員選挙規程」に則り、役員選挙(投票)を実施。関谷暢人、伊賀隆一郎、瀬戸口裕郎、朝日和博、新井稔、宮田富由、以上6名の立候補者全員が新理事として選任されました(監事への立候補者は無し)。また、愛知

県連盟・福岡県連盟から「現状では最少定員数なので増員のための役員選挙を行った方がよい」との意見が出され、監事と併せて理事増員のための選挙を行うということについて採決。その結果、賛成21票、反対14票、棄権4票で、6月通常総会で、監事と併せて理事増員のための選挙を行うことになりました。

### 第5号議案

定款改訂の必要性について青森県ハンググライディング連盟から定款改訂に関する問題提起があり、今後

定款改定を検討していく必要があるか否かについて採決。必要ありに賛成29票、反対1票、棄権9票で可決しました。

### 第6号議案

総会傍聴規約(案)の決定について賛成36票、反対1票、棄権2票で、総会傍聴規約の理事会案を可決承認。この規約は「JHFの総会を広く会員に公開するため」のもので、6月通常総会から、この規約が適用になります。(規約全文をJHFホームページに掲載しています。)

## 新理事



朝日 和博  
会長



瀬戸口 裕郎  
副会長  
安全性委員会  
制度委員会  
法務委員会担当



関谷 暢人  
常任理事  
補助動力委員会  
安全性委員会  
広報出版部担当



宮田 富由  
常任理事  
厚生活動補助事業  
普及事業担当



荒井 稔  
理事  
PG競技委員会担当



伊賀 隆一郎  
理事  
教習検定委員会  
HG競技委員会担当

## 渡邊さんの遺したもの

渡邊敏久JHF名誉会長が、3月3日、心筋梗塞のため亡くなりました。享年80歳。

渡邊さん(仮 財)日本航空協会スポーツ航空室長として、さまざまな航空スポーツの普及に尽力されました。なかでもハンググライディング振興への意欲を強く持たれ、日本のハンググライディング創成期からこのスポーツの環境を整えるために情熱を傾けてこられました。

航空協会を退職後、1985年にJHF理事長に就任、以来16年間にわたり理事長・会長・理事をつとめられ組織の発展に大きな足跡をのこされました。その功績により、昨年春に名誉会長に就任されたばかり。これからもJHFのために貴重なアドバイスをいただくはずでしたが、.....突然の旅立ちが残念でなりません。

JHF以前からフライヤーの組織作りに関わってきた朝日和博JHF会長と、渡邊さんと共に50年を歩んできた矢ヶ崎弘志さんに「渡邊さんへの思い」を語っていただきました。

### 渡邊さんの遺志を受け継いで

朝日 和博  
渡邊さんには何も無かったところから私たちを導いていただきました。渡邊さんの力が無ければ現在のJHFは無かったといっても過言ではありません。1989年

に国際航空連盟のポール・ティサンディ工賞を受賞されたことが、故人の業績の偉大さを物語っています。

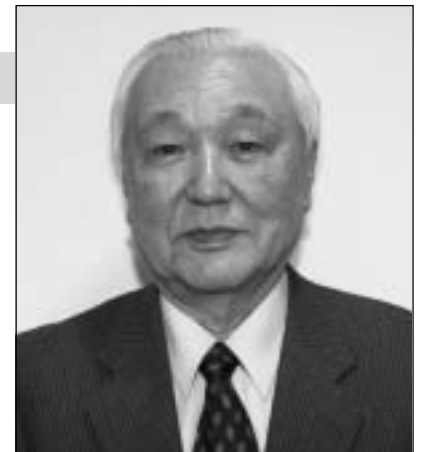
まだご指導いただくことが数多く残っており、全国のフライヤーにとって大きな支えを失いました。誠に残念です。そのご遺徳に心底より感謝申し上げますと同時に、ご遺志を受け継いでいくことこそ報徳の歩みであり、そして同じく空を愛する我々の目標でもあります。

これまでの航空スポーツ界へのご尽力に心から感謝申し上げ、故人が最後まで心にかけておられた、この空の仲間の組織をさらに発展させることを誓いたいと思います。

### 渡邊さんの遺したもの

矢ヶ崎 弘志  
渡邊敏久さんは十代の半ばからグライダーに乗り始めていた。だから旧制中学4年生の頃には、もう年上の大学生に操縦を教える立場になっていたという。しかし戦争のため、大学に進んだ渡邊さんも学業半ばで軍隊に動員され、陸軍の操縦将校として戦場の空を飛ぶ羽目になってしまった。

終戦で軍隊から解放され復学。ここから渡邊さんのスポーツ航空人生が本格的となる。昭和27年に日本航空協会が発足



渡邊敏久さん(1999年春撮影)

すると、いち早く入職して訓練課長となり、グライダーや模型航空などスポーツ航空団体の組織作りと、指導者養成に力を注ぎ始めた。また、グライダーの操縦練習課程の改革をすすめ、複座機による教育を普及させた功績も忘れてはならないだろう。その間に自身も複座グライダーを操縦して、獲得高度の日本記録を樹立している。さらには、公共グライダー場(千葉県関宿町の東京滑空センター)開設に尽力するなど、その活躍ぶりは枚挙に暇がない。

滑空界の役職は、昭和46年に日本滑空協会が社団法人化するにあたって後進にゆだね第一線を退いたが、その後もご意見番としての存在は しばしば煙たがられるほどに 大きかった。

2003年3月23日～3月30日 茨城県八郷町エアパークCoo 19カ国・129名参加  
 様々な国のことは、様々な人種。桜の開花と共に、世界中から一流選手が集合。  
 茨城県は八郷町、エアパークCooにて2003年ワールドカップの初戦が開催された。  
 日本でのワールドカップは9年ぶり、4度目の開催になる。  
 イベント会場である八郷町役場には、世界選手権を思わせる様々なイベントや屋台、  
 熱気球の体験会、パラグライダーの体験会も行われ、大勢の観客で賑わいを見せた。

## TASK1

3月24日(月)

B23-A55(3kmシリンドースタート)  
 スピードラン

ゲートオープン11:00

タスク距離51.9km ゴール者102名

タスクはシンプルで、テイクオフから約4km先にあるB23パイロンを中心とする半径3km圏内に一度入り、離脱した時間がスタート時間。それから約50km先の烏山のゴールへ向かう。パイロンはシリンドーと呼ばれる円筒形の空域で、指定地を中心とした円筒に入るだけでいい。パイロンを通過したか否かの判定は全てGPSに残るログで行われる。

ゲートオープンと同時に続々と選手達はテイクオフ。すぐに足尾山上空に巨大なガーグルが形成される。サーマルに合わせて形を変え、まるで群をなす小魚のようにうごめく。

ゴールレースならば、スタート時間と同時に彼方に飛んでいってしまうものだが、タスクはスピードラン。予想通り、牽制するばかりでなかなか動きを見せない。痺れを切らして飛び出すパイロットを、皆待ちかまえている。

ゲートオープンから45分、最初の集団がスタートを切った。足尾山系を離れ、平野部へグライドを開始する。11時45分の時点で雲底は1200m、風は南東3mほど。都合の良いことに、北に向けてクラウドストリートができています。

その頃、昨年のパラグライディングワールドカップ(PWC)ランキング上位、ブラジルのフランク・ブラウン、アメリカのスコッティ・マリオンがようやくテイクオフした。選手の中では最も遅いテイクオフだ。午後に勝算があると見越しているのだろう。

先発組は、5機～20機の集団をいくつも

散りばめ、サーマルを見つければ集まり、また散らばるを繰り返し、北上を続ける。

一方マリオンをはじめとする後発組はまだスタートを切らず、足尾山系を飛び続けている。

先発組がゴールメイクをした頃、ようやく後発組がスタートを切り始める。この頃、足尾山系からゴールの烏山にかけて、大きなS字を描くように、南東風と南西風とのコンバージェンスが形成されていた。こうなることを予想していたのか、続々と後発組が北上を開始する。

先にゴールへ到達した選手達は、ゴールメイクの喜び反面、好条件に変わりつつある空を見上げ、早すぎたスタートを少しばかり悔やんでいる。機体のパッキングを終える頃、予想通り続々とゴール上空に後発組が姿を現すことになる。

この日トップのマリオンは、コンバージェンスに沿ってひたすらアクセルを踏み続けた。スタートを切ったからは僅かに13回ほどしか回さなかったと言うから驚きだ。ゴール時間は14時39分、51.9kmを1時間7分という、驚異的なタイムを叩き出すのも頷ける。しかし、条件が揃わない先発組のスタートにも関わらず、1時間21分でゴールした只野正一郎選手のスピードも見逃せない。

結果は102名の選手がゴールメイクする、幸先の良いタスクとなった。この日の明暗を分けたのはスタート時間。トップ選手のコンバージェンスの読みは見事としか言いようがない。

3月25日(火)

雨のためキャンセル。

## TASK2

3月26日(水)

B2-A52-B05-B25-B18-A61

ゲートオープン12:55

レーストゥゴール

スタート14:10

タスク距離50km 68名ゴール

タスクは、西側ランチからテイクオフし、西方向6km先の橋がデパーチャー。それから山へ戻り、燕山頂に位置する鉄塔、南下して筑波山頂のアンテナ、一度足尾山系を離れ北上し、雨引のアンテナ、南下して八郷町役場横の田んぼがゴール。

高度が取れば、なんてことはないように思えるが、強い北西風がベースであることに付け加え、デパーチャーは起伏のない平地。

この日は朝から北西風が強く、ほとんど競技は難しい状況だった。可能性があるとするれば、宇都宮不連続線の発生。これは、通称「宇都宮コンバージェンス」と呼ばれ、北西風が強い場合、筑波の北西に位置する日光連山によって二分された風が、平野で再び合流、そこにコンバージェンスができるという現象。コンピュータの解析では、コンバージェンスは南下してしまい、やはり競技は難しい。

しかし、大会の気象コンサルタントをつとめる内藤邦裕気象予報士の解析は、コンピュータの解析とは違った。刻々と変わるデータと空をつぶさに観察すると、南方向にぼつりぼつりとできる雲が徐々にエリアに向けて北上してくる。変化する気象状況に、スタッフも迅速に対応し、午後からレースが始まった。

スタートはばらけた。高度の取れる筑波山からスタートを切る集団と、直接スタートを切る集団。直接スタートを切る集団も、高度を維持できたパイロットはいち早く山へ戻った。

レーストゥゴールは分かりやすい。先頭を走る者がトップなのだ。しかしこれは空のレース。降りたらリタイアになる。したがって位置する高度も重要なのだ。

先頭を快走するスイスのアレックス・フOFFエルや川地正孝選手を落とし穴

# 茨城の空に百花撩乱

2003パラグライディングワールドカップ茨城



覇者・マリオンがテイクオフしていく。



次々にテイクオフ。アインホルツァーも続く。



タスク1の烏山ゴール。続々とファイナルを切る。



PWCA会長のオリビエ氏(右)と半谷貞夫競技委員長。

が待ち伏せていた。目まぐるしく変わるコンバージェンスのタイミングを逃し、筑波山から雨引に向かう途中で二人は降りてしまう。

最高で2300mの雲底という好条件に恵まれながらも、刻々と変化するコンバージェンス。勝敗を分けたのは高度1000mを保てるかどうかだった。キープハイで移動した選手はゴールできるも、高度を下げてしまった選手はスタック、もしくはランディングを強いられた。

この日のトップタイムは1時間48分、スイスのサイモン・モルゲンテラーだ。タスク1とほぼ同距離ながらも、40分以上余計にかかっていることが、このタスクの難しさを物語っている。

3月27日(木)

強風につきキャンセル。

3月28日(金)

西風強風。キャンセル

3月29日(土)

フライトは可能だが、テイクオフ周辺の風が弱まらずキャンセル。

## TASK3

3月30日(日)最終日

B01-B05-B22-B17-A56

レーストゥゴール

11:20ゲートオープン

スタート12:00

タスク距離85.1km 85名ゴール

最終日、大勢の観客が見守るなかレースは始まった。タスクはレーストゥゴール。燕山鉄塔をスタートし、きのこ山山頂、沖に出てCooショップ、北上して約80km先の黒羽ゴールを目指す。

スタートと同時に、巨大なガーグルは一斉に同方向へ動き出す。無数に散らばった色とりどりの機体。大勢の観客から歓声が沸き上がる。しかも先頭を走るのは只野選手、すぐ後ろには伊沢光選手と続く。レース実況を解説する小野寺久憲氏の声にも熱が入る。

集団はCooショップを通過し、燕山山頂に再び巨大なガーグルが形成される。そこで高度を稼ぎ、足尾山系を離れていく。高峰、茂木を越え、烏山付近にさしかかり、レースも終盤を迎える。

残す10km程、終盤のレグ。トップに只野、オーストリアのヘルムート・アインホルツァー、ポルトガルのアメリカ・ソーサの3機が並ぶ。まず、山際を飛ぶヘルム-

トがシンクに捕まり、同じく只野も捕まる。その状況を見たアメリカはコースを迂回、そのままトップでゴールを決める。高度をロスした只野は、ゴール5km手前で100m上げ直し、惜しくも6位でゴール。トップタイムから3分ほど遅れてのゴールとなる。

総合優勝は、タスク1のアドバンテージを維持したマリオン。2位はタスク3のトップ、ソーサ。3位にスイスのレネ・ハウザー。只野は追い上げるも6位で、大会は幕を下ろした。

2003年の初戦を日本で迎えたワールドカップ。テレビをはじめとし、様々な媒体へのアピールが、大勢の観客動員につながった。タスクも3本成立。イベントや競技、全てにおいて大成功だったと言える。これも、競技委員長の半谷貞夫氏をはじめとする、連日連夜働き続けたスタッフの大会成功への思いと、情熱の賜だろう。その情熱が多くの人々に伝わり、感動を生んだ。ぜひともまたこの感動を日本で味わいたい。

[報告:JHF広報出版部 松原 正幸]



総合トップ3。左からソーサ、マリオン、ハウザー。



女子トップ3。左から2位、1位、3位の選手。



国別トップ3。左からオーストリア、スイス、フランス。

## 成績

[総合] \*氏名の前の数字はゼッケン

1位	2	MARION Scotty	アメリカ	2434点
2位	16	SOUSA Americo	ポルトガル	2319点
3位	26	HAUSER Rene	スイス	2281点
4位	117	WYSS Stefan	スイス	2193点
5位	8	BROWN Frank	ブラジル	2160点
6位	7	只野 正一郎	日本	2090点
7位	24	BRAUNER Tomas	チェコ	2062点
8位	110	ORLIK Martin	チェコ	2050点
9位	3	CARON Jean Marc	フランス	2043点
10位	29	EICHHOLZER Helmut	オーストリア	2019点

[女子] \*氏名の前の数字はゼッケン

1位	35	KRAUSOVA Petra	チェコ	1842点
2位	46	RAUCHENBERGER Elisabeth	スイス	1439点
3位	66	BRILLE Caroline	フランス	1283点
4位	332	水沼 典子	日本	936点
5位	12	LICINI Caroll	スイス	828点
6位	143	ALFREDSSON Lena	スウェーデン	816点

[国別]

1位	スイス	7457点
2位	オーストリア	6181点
3位	フランス	6036点
6位	日本	5792点

[チーム別]

1位	Gin - Aerotact Racing	53点
2位	UP 1	34点
3位	Bigstar	32点



チームのトップ3。左から2位、1位、3位のチーム。

# ココが知りたい!!

## パイロットのためのトレーニング [パラグライディング編-1]

JHF広報出版部のメンバーがJHFレポートの内容を話し合っている時、ひょっこり飛び出したのは「パイロット証取得後も疑問がたくさんある。練習生の時のようにインストラクターがずっと見てくれるわけじゃないし、雑誌記事を参考にしてもドンピシャリ疑問解決とはいかず、いつもクエスチョンマークを道連れに飛んでいる」という事実。これは大問題だ。それなら、私たちが飛び手を代表してインストラクターに疑問をぶつけようということになった。

この企画に応じてくれたのは、パラグライディング教本の執筆者のひとりで、教員経験豊かな加賀山務さん。広報出版部のパイロット、東野武史、小崎一貴、三浦郁世の疑問を、真正面から受け止めてくれた。

サーマルを的確に判断するには？

**東野:**パラグライダーをしていると、いかに高度を維持したり上昇したり、サーマルの中でどう動き回るか、ということに行き着くのですが、……。最初のうちは、下からインストラクターに指示してもらっても、何故ここで回さなければならないのか、何故サーマルを外してしまうのかわかりません。回すポイントがわかるかわからないかで滞空時間や飛行範囲が変わりますよね。

**加賀山:**サーマル内での旋回のポイントを判断するのはけっこう難しいことです。サーマルは、暖かい空気の塊が輪のように循環しながら上昇している状態で、その上昇の強い場所で旋回を続けることで、グライダーは上昇できるわけです。サーマル内は中央部分が最も上昇風が強く、外側に離れるに従って上昇風が弱くなります。これは、パラグライダーで無防備にサーマルに入った時に、サーマル中心に近い側の翼が持ち上げられるということです。そして自然に外側へと旋回させられて外れてしまうんですね。

サーマル内で上昇するのに必要なのは、強い上昇風が吹くサーマル中心の周りを旋回し続けることで、翼を持ち上げられる側に旋回を続けること。感覚的に言うと、翼が持ち上げられるのを体重移動とブレーク操作で抑え込み、最も上昇率の良い時に旋回に入ることですが、コツを掴むまではなかなか思うようにいかないものです。ここで、「よりよくサーマルソアリングを練習するコツ」をお教えしましょう。

基本操作習熟がサーマル判断のカギ

**加賀山:**皆さんは既にパイロット証を取得しているので、インストラクターから「進路を維持すること」「揺れを抑えて真っ直ぐ飛びましょう」と何度も聞いていると思います。基本中の基本で、B級段階で修了する基礎技術だと思われがちですが、実はこれが最も難しく、最も重要なサーマルソアリングの練習なのです。これをきっちりマスターしない

ちに「サーマルがあるから回す」飛行に移行することで、上昇気流の適切な判断ができなくなっているのです。

サーマル内で真っ直ぐ飛ぶには、上昇風を適切に感じ、持ち上がる側のブレーク操作と体重移動で機体が傾かないようにコントロールしなければなりません。この時持ち上がるろうとする翼の側にサーマルの中心があるわけです。パリオメーターの反応もサーマル中心に近づくに従い徐々に強くなります。上昇風が最も強い部分(サーマルのコア付近)を通り過ぎると片翼を持ち上げようとする(上昇風)も弱くなるので、真っ直ぐ飛ぶには抑えていた片側のブレークコードを徐々に緩める必要があります。パリオの上昇率も徐々に弱くなり最終的にはサーマルから外れ沈下し始めます。

この「揺れを抑えた直線飛行」をサーマル内できっちりコントロールしてできるようになれば、パリオの反応とブレークコードの抑え方で、いつサーマルの中心を通過したか、サーマルの中心が何処にあるのか、そういったことが良くなるようになるでしょう。またサーマル内の乱れた風の動きに適切に対処できるようになると思います。

つまり、風の流れを意識して「直線滑空、揺れの抑制」という基本をマスターすることがサーマルを正しく認識するのに必要なのです。旋回のタイミングは、サーマルで持ち上げられる側を正しく抑えていけば、上昇率のピークを過ぎた時に自然にそちら側に傾き始めるので、判断し易いですよ。

以上をまとめると、機体の水平を維持して飛ぶのは、片翼が持ち上がる時・下がる時に適切にブレーク操作ができていることを意味します。それができれば、サーマルの状態も判断し易いし、サーマル内で回すタイミングがわかるという理論です。

実は、旋回中グライダーが傾いている時も同じことが言えます。サーマルは乱気流なので、機体の傾きを維持しようと思っても、当然風の強弱で揺られそうになります。しかし水平飛行と同様に「一定の傾き」を意識できれば、サーマルに入りブレークの引き量を調節することでバンクが維持でき、旋回半径が決まった安定した360度旋回ができるようになります。みんな最初の段階でつまづき易いのです。最近の初級機はピッチ、ロール共に自立安定が良く、あまり揺られずに飛ぶようになっているので、尚更そのステップが省略されるのでしょうか。

旋回中のブレーク操作は？

**東野:**では、次の質問です。私はブレークを当てすぎてキャノピーが潰れた経験があります。抜けちゃうというのか...それでツリーランもしました。回している時の外側のブレークの当て方がよくわかりません。

**加賀山:**まず、ツリーランって言葉に流され

がちですが、「ツリーラン＝墜落」ですからね。気楽に考えないこと！これはよく憶えておいてください。さて質問の回答ですが、これは一言で言うのは難しい。あえて言うなら「料理は塩加減、パラグライダーはブレーク加減」という感じで、ちょうど良い塩梅(あんばい)が重要。引いていけば良いとか抜いていけば良いという問題でもないのです。このブレーク加減を架空の想定のみで話すのは難しいものです。

例えばサーマル内で旋回していると外翼が潰され易い。外翼はあまりブレークコードを引かず対気速度が速い、さらに内翼を上昇風で持ち上げられるために迎角が下がり易い状態だからです。更にサーマルの外側は上昇風が弱く、時には下降風の場合もありますから。一方、内翼はブレークを引いているので迎角は上がった状態、更に旋回の内側だから速度が遅く、強い下からの風を受ける。非常に失速し易い状態です。

東野さんは「ブレークを当てすぎて潰れた」ということですが、ブレークが潰れる原因ではなく、恐らくブレークの引き過ぎで内翼に失速が起こり、軽いスピンから先行した外翼に潰れが発生したのだらうと思います。通常の潰れる原因は翼に当たる風の向き＝迎角が下がることですからね。逆に失速の原因は迎角が上がることです。

ここで問題なのは、サーマル内での旋回中には「外翼は潰され易く、内翼は失速し易い」ということで、どちらもイヤですね。それでもサーマル内で旋回したいのだから困っちゃいますよね、フライヤーってのは。

ちょうど良い加減のイメージを作る

**加賀山:**ちょうど良い旋回の状態というのは、きちんと速度を保ってバンク(傾き)がついた状態で旋回を維持することですが、傾きをコントロールする補助翼(エルロン)を持たないパラグライダーの場合、速度とバンクは自立安定によって連動したものです。特に潰れを警戒し過ぎて外翼のブレークをしっかりと引いた場合、旋回を維持するためには内翼を更に引き込まなければなりません。速度を落とすことでバンクが少なくなり「低速でフラットな旋回」になるわけですが、これは強く乱れたサーマルの中では、失速し易い非常に危うい状態です。弱いサーマルの中でも最小沈下率で飛ぶのがベストで、必要以上に速度を落とす必要は全くありません。

逆に、速度を上げようとして外翼のブレークを開放すると「カッコいいタイトな旋回」が実現するかもしれませんが、外翼のブレークコードからのフィードバック(反応)を感じることができず潰され易くなるでしょうね。それぞれの両極端な状態をイメージし、その間の「遅すぎず、速すぎず」という旋回のイメージを作ってください。

旋回中の外翼のブレーク操作は、旋回の中

心からスパン(翼の横方向)が一直線になるように操作するのがポイントです。サーマルの強弱の変化で、パラグライダーはヨーイングと合わせてローリングを発生します。外翼が前に先行する(内に切れ込む)時は外翼のブレークを少し強め、外翼が遅れる(外へそれる、ピッチアップ)時は内側への体重移動と合わせて外翼のブレークを少し緩める感じで操作してみてください。大きな揺れのきっかけとなるヨーイングを細かな外翼のコントロールで抑制できれば、かなり安定した旋回を維持できます。

人の振り見て我が振り直せ

三浦:だいたいわかった気はしますが、.....

加賀山:まあ、聞くのと実際に行うのでは全く違いますから、慎重にトレーニングしましょう。大切なのは自分のやっていることを正しくイメージすること。これは、初心者にはできないことで、既にパイロット証を取得した皆さんには可能なことです。

三浦:と言うと?

加賀山:空を飛んだことが無い人がそのイメージを作ることができるでしょうか。できないですね。尻尾の無い人間に尻尾を振る感覚がわからないのと同じです。初心者は特に目のこと、インストラクターの指示に従うことに必死なので、自分の行動をイメージするのは難しいです。まあ、そんな中でも上達するための手段としてお勧めは「無線傍聴システム」です。(笑)

三浦、小崎:なんですか、それ?

加賀山:インストラクターが他のフライヤーを誘導するのを聞くことがイメージに繋がる、ということです。練習生はインストラクターが何を生徒に求めて発言しているのかを理解し、イメージを増やしていかなければならない。だけど、実際に飛ぶ時には「聞いたことをやるのに必死」。もっと簡単に言えば「自分がやっていることを自分が一番わかっていない」ということ。逆に、人の失敗や飛んでいる状態を見るのは勉強になります。無線誘導は生徒のフライトを専門家が解説しているようなものだから、他人が飛んでいる状況の解説を聞きながらフライトイメージを作っていくのは、かなり有効なトレーニングと言えますよ。

潰されないように飛ぶには?

東野:もう一つ質問ですが、潰れを防止したり、すぐ回復させるにはどうしたらいいのでしょうか。というのもJHFレポート3・4月号の事故報告を調べてみると、離陸後の事故27件中、翼の潰れが原因のものが10件あるんです。潰れに対する対処がきちんとできれば事故も断然減ると思うのですが。

加賀山:そうですね。大変良い質問です。質問の回答としては、潰されないように飛ぶことは可能です。しかしそれを伝授するには若干難しさがあります。変な言い方になりますが、先ほど述べた直線飛行がしっかりとできるようになれば、潰されないように飛ぶためのコツと操作のタイミングが判ってくるので良いのですが、潰されないためにはブレークを操作するタイミングが最も重要です。しかし、このタイミングを人に伝えるのはとても難しいのです。

大切なのは、潰れる時にグライダーをきち

んと抑えられているか。細かく言うと、潰れるということは迎角が決まってくるのです。グライダーは迎角が0でも揚力が発生するようにできていますが、迎角がさらに下がり揚力が発生しない状態(ゼロ揚力)になった瞬間に、前縁が潰れるのです。この時、ブレークコードやライザーから張りが無くなる(緩くなる)のは、潰れる前に感じるができます。それを感じた時にブレークを少し引いて、ゼロ揚力にならないように迎角を上げるということです。ブレークコードを10cm引くだけで迎角が2~3度は上がるでしょうね。その時点で揚力が発生しグライダーに張りが出るんです。

更によく言うと、初級機は潰れにくいけれどやっぱり潰れます。高性能の上級機はより迎角の少ない状態で滑空するようになっているので、性能が上がった分だけ潰れ易いのも当然です。性能を求めて上級機に乗り換えるのは、潰されないように操作する「アクティブセーフティコントロール」ができるようになってからにしましょうね。

実は高性能機というのは性能を維持するのが難しい機体です。性能が良いということも多くのパイロットが乗っているのですが、「高性能」というのは要するに翼型で決まるので、翼型を維持できなければ、あまり性能が出ません。更に、微妙な操作のタイミングが合わされずにピッチングやローリングをしながら飛行するようでは、高性能機に乗る意味も無いということになりかねません。風に翻弄されてブレークコードを引いた状態の高性能機よりも、最良滑空の翼型で安定して飛ぶスポーツ機の方が速度も性能も良いということですね。上級者が飛ばせば初級機でも優れた滑空比で飛ばすことができます。技能が未熟な人が高性能機を飛ばすと動きが激しくなり、アスペクトも高く歪んだり潰れ易くなるので、ベストな翼型では飛ばせません。高性能翼型をわざわざ性能を落とし形で飛行している場合が殆どなんです。つまりは高性能機で性能が出るのは、性能の出る翼形で飛んだ時だけの話なのです。そして、高性能を出すということは揚抗比が良い状態=迎角の少ない状態を意味しますが、潰され易い状態でもあります。潰されにくくするためには、ブレークコードを少し引いて迎角を確保し、翼の揚力を感じ続けること、扱い易く安全性の高い機体に乗ることに尽きるということですかね。それでリラックスして飛べれば一番じゃないですか。潰れた時の対処法は?

小崎:30%潰れると潰れた翼の反対側を抑える、半分潰れて旋回に入ったら旋回方向についていくんだと習いましたが、本当にそうなんですか?

加賀山:それもケースバイケースです。潰れた側についていけと言うよりは、取られた方向に進路をとりながらリカバーしたほうが回復がし易いということです。飛行速度も維持し易いですからね。ヨーロッパのマヌーパースクールでもそう教えていることが多いのが現状ですが、「ついていけ」という表現も間違っって受け取られ易いので正確には違います。意識して「ついていこう」として、体重移動を潰れた側に向け、逆にオーバーアク

ションになり、ダイブに入る人も多いので注意してください(これは機体テストで行うかなり激しい操作です)。

基本的には身体は中立でかまいません。非常に大きな潰れでも、殆どの場合ノーフォローにすることで自然に真中までは直ります。しかしその時の進路をある程度維持し、潰れた側に激しく切れ込むのは防止しなければならない。残った翼の速度もある程度維持しなければならない。この操作の加減が重要です。潰れたグライダーを必死に直そうとしたり、旋回を止めようとし過ぎて失速する人が多いために、「大きな潰れからの旋回は止めようとし過ぎず、ある程度ついていけ」と表現しているのです。

もし大きな潰れが発生し、あっという間に機体が先走った時や、最終的に内翼が潰れたまま急激なスパイラルダイブに陥るのなら、その時はレスキューの開傘も考慮すべきです。しかし日本ではレスキューを使うという意識がかなり薄いのが現状です。多くの方が「潰れて、回って、山チン」したことを気軽に語っているくらいですから。そもそも「確固とした対処法があると思うのが錯覚であるかもしれないですね。重要なのは「状況に対処できるかどうか」を的確に判断することで、その技術を身につけるためにマヌーパートレーニングは非常に有効なことです。しかし、知識や聞きかじりだけのマヌーパという意識が強くなると、間違っった意識が生まれる可能性があることを憶えておくといいかもかもしれません。

小崎:頭ではわかったと思うのですが、実際に飛びながらなら、もっと学べますね。

東野:一人一人見ていただく機会があればもっと話は深いものになるでしょうね。

加賀山:今度はエリアで話しましょうか。

一同:ぜひ、お願いします!



左から小崎、三浦、加賀山さん、東野

#### 加賀山 務(かがやま つとむ)

1965年山口県、巖流島の島で生まれる。幼少の頃からパイロットに憧れ、いつか空を飛んで本州に渡る日を夢見る。大学生の時にハンググライディングを始め、スカイスポーツの魅力に取り憑かれる。卒業後ハンググライダーメーカーに勤務。パラグライディングが日本で始まった頃からインストラクターとして活躍し、国内外の競技会にも参加。現在、長年勤めたメーカーを退社しフリー。

#### 参加者・あなたの疑問を募集

次回、エリアでの「ココが知りたい!」参加者を募集。東京から近いエリアに日帰りできるPGパイロット若干名。未成年者不可。5月10日までにJHF事務局広報出版部ココが知りたい!係にご連絡を。また、あなたの疑問をお寄せください。氏名、連絡先、P証取得日を明記のこと。FAX.03-5840-8312 E-mail:koho@jhf.skysports.or.jp



一同の熱い視線を浴びてテイクオフする加藤豪さん。

県  
連  
だ  
よ  
り



魅力的なフライトエリアがたくさんあります！ 愛媛県ハンググライディング連盟  
宮西 亜希子・玉井 佐都

加藤豪氏を招きチャリティーフライト  
3月2日(日)愛媛県ハンググライディング連盟(EHF)普及委員会主催でチャリティーフライトがありました。会場の神南山五十崎エリアに加藤豪さんに来ていただき、参加された方は有意義な日曜日を過ごされたことと思います。県連活動のひとつとして、このイベントについてレポートします。

9時から準備、受付開始。前日の大雨が嘘のような快晴で、愛媛県内外より約50人のエントリーがありました。競技は爆弾落として、開会挨拶の後、理事長より競技説明があり、五十崎北テイクオフへ。早速セッティング。加藤さんがヘルメットを着けずにライズアップし、飛んで行きそうになるけれど、飛ばずに、ライズアップしながら風を見ていたようでした。

いよいよ本番。加藤さんはテイクオフでこずる面々を尻目にさっさとテイクオフ。ランディング上空辺りで徐々にトップアウトし、テイクオフ上空に戻ってきてアクロバットフライトの数々を披露していただきました。SAT、マックツイスト、フルストール、ヘリコプター、スパイラルランディング等々、私は初心者で

よくわかりませんが、どこを中心に回っているのかわからないような回り方をしたり、後ろ向きに回っているように見えたり、くるくるキャノピーの中心を軸に左右に回ったり.....ビデオで見たことはあっても、実際に目の前で見ることは初めてで、とにかくすごかったです。

爆弾落としてはというと、優勝者の成績は142mの距離。もちろん加藤さんも参加していただきました(成績はナイショ)。

いろいろに楽しめる神南山エリアではここで簡単に神南山エリアのご説明をしましょう。

神南山エリアには3カ所のテイクオフポイントがあり、北エリアでは東西に連なる尾根のリッジに加え、街からのグランドサーマルに乗れば、内子から五十崎・大洲の街並みを眼下にソアリングできます。一方、南エリアは主に山飛びのエリアで、北の街並みが広がる景色とは違って、一面山・山・山そして山。太陽で暖められた南向き斜面の空気は、山肌を駆け上がってテイクオフにブローを吹き込み、大空へと運んでくれます。晴れていれば、北風の時でもよほど風が強くない

限りほとんどフライト可能です。

また、昨年大登山(通称ねこ山。来ていただいたら意味がわかりますよ!)からもテイクオフできるように開拓されました。大登山は、神南テイクオフから北ランディングをはさんで向かい側にある360mほどの、こぢんまりとした山です。でも侮ってはいけません。下の民家からのサーマルも上がってくるし、北～西風があるときはリッジもひろえます。私も北から飛んで、大登山で遊んだ経験が数回あります。ランディング場は河川敷でとても広く、風が強くて飛べない日も横を流れる肱川で泳いだり、パーベキューをしたりとくつろげます。

そうそう。ここ五十崎は盆地なので、地形上、冬に『肱川あらし』と呼ばれる雲海ができます。朝早くテイクオフに上がれば雲海を見下ろせますし(絶景!)雲海が少し晴れてきたら雲海を横切りながらフライトしたりと、四季によっても様々な景色の変化があります。

愛媛県には五十崎だけでなく、双海エリア、泉が森エリア、大洲神南山エリア、西条エリア等たくさんの魅力的なフライトエリアがあります。ぜひ飛びに来てくださいね。

愛媛県連へのご連絡は下記まで。  
愛媛県ハンググライディング連盟  
理事長:伊賀上 幸司  
〒791-1112 愛媛県松山市高井町1639-3  
TEL.089-970-5787 FAX.089-970-5787  
E-mail:iga-pyoon@nifty.com



加藤豪さん。くるくるグルグルとにかくすごかった。



## 県連ニュース

茨城県ハング・パラグライディング連盟  
[ ウインドパワーつくば建設反対運動 ]

現在、茨城県足尾山エリアから約2km北に位置する丸山の山頂付近に、風力発電施設「ウインドパワーつくば」を建設する計画が持ち上がっており、茨城県連盟では建設反対運動を行っています。

地元企業によるこの計画では、1000kw級、プロペラの直径68m、高さ100m以上の風車2基を建設することになっています。同企業の独自調査によると年間の平均風速は6m/s以上。新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の風況マップでも6m/s以上となっています。しかし、該当地より200m以上高い筑波山頂でもアメダス20年間の平均風速は約4.8m/sと弱く、多額の補助金を使い建設しても稼働率は悪いと言わざるをえません。これは社会的に見ても有用性の低い物です。

重要なフライトコース上に計画されているこの施設が建設されてしまえば、フライトは大きな制限を受け、フライヤー人口の減少につながります。

先日行われたパラグライディングワールドカップで、外国人選手は同エリアの良さを実感し、当連盟で行っている反対署名に全員が快く協力してくれました。また、開会式に出席された茨城県知事に、CIVLのオリビエ会長も助言してくださいましたが、依然、状況は厳しいままです。

当連盟では、まだまだ頑張って反対運動を続けて行きますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。反対署名をしてくださる方には書式をお送りしますので、当連盟事務局にメールでご連絡ください。アドバイスもお待ちしています。  
infocoo@mb.infoweb.ne.jp

[ 記: 板垣 直樹 ]

埼玉県ハング・パラグライディング連盟  
[ フライヤー親睦会に80名以上が参加 ]

皆さん、こんにちは。春の空をどう飛んでいますか。春は風もサーマルも強い季節です! 幸か不幸かそんな強風の3月9日(日)、埼玉県比企郡小川町仙元山エリアで当連盟主催のフライヤー親睦会を行いました。当日は風が強いというよりは、爆風! おかげで予定の倍を越す80名以上が親睦会に遊びに来てくれました。

開催場所の仙元山のテイクオフ見学や山中にあるローラー滑り台で遊んだ後に、エリアの方たちが1ヶ月以上前から試食と吟味を重ねた料理や、エリア所有の石釜で焼いた料理に舌鼓をうちました。

その後、3月末のPWC茨城大会の委員であり参加選手でもある長島事務局長がPWCの見所をレクチャー。他にも遊びに来ていただいたディーラーの方の話に皆



料理に舌鼓を打ちながら親睦を深める。

聞き入っていました。

この親睦会は、埼玉の空を飛ぶフライヤーの交流を図るもの。今までの県連事業がパイロット証所持者を対象としたものがほとんどであった事を検討した結果、練習生でも参加しやすい事業として企画したものでした。

県内全エリアのフライヤーが参加し、県外からも東京や長野のフライヤー、東京都連盟の理事の方達も遊びに来ていただき、連盟同士の交流も深められたと思います。また、今回の良かった点と悪かった点を踏まえ、次年度の事業展開を図っていきたく考えています。

最後にこの場をお借りして、今回全面的に協力をしていただいた仙元山エリアの皆さんにお礼を述べたいと思います。皆さんの協力がなければここまでの成功はなかったでしょう。皆さんの仲間を愛する気持ちがある限り、フライヤー同士の輪が広がっていくものと信じます。そういう機会を県連として提供していければと思います。

参加してくれた皆さん、本当にありがとうございました。またいつか埼玉で会いましょう!  
[ 記: 渡辺 竜幸 ]

愛知県フライヤー連盟

[ 安全講習会で一日しっかり勉強 ]

3月9日、大府市勤労文化会館において



川口講師の説明に耳を傾け各自の経験を振り返る。



応急手当の実習を行い安全への思いを新たにす。

安全講習会を開催。教員、助教員、一般フライヤー、約30名が参加しました。

午前の部では『最近の機体特性』と題して、川口竜太氏を講師に招き講習を行いました。パラグライダーの飛行原理から始まり、いろいろな技術データをもとに非常にためになる講義でした。

午前の部の終了前には、参加者全員の意見交換等もあり、とても有意義な講習でした。特に「レッグベルトの締め忘れによる事故を再発させない!」等の発言が多くありました。

午後の部は『普通救命講習会』。大府市消防署の皆さんのご協力を得て、事故の場合の応急手当についての講習を受け、参加者全員が実習を行いました。最後に三角巾の使い方等の実習もしました。

全員での昼食をはさみ一日しっかり勉強を行いました。 [ 記: 山口 貫太郎 ]

福岡県ハング・パラグライディング連盟  
[ 定例総会開催、小林理事長続投 ]

福岡県連の定例総会が、2月2日(日)、米の山エリアの麓「クリエイト篠栗」で開催されました。当日は02年度の事業報告、決算報告、03年度の事業計画、予算案が話し合わせ、役員の変更が行われました。理事長には昨年に引き続き、小林氏、副理事長には梶原、山崎両氏が選出されました。

また総会に先立ち、12月にJHFの視察でドイツ、フランスを訪れた小林氏の報告会も同時に開催されました。

[ 記: 越智 善治 ]

連絡先・ホームページURL等の変更  
大阪府フライヤー連盟

事務局住所・電話・ファクス番号変更  
〒530-0051 大阪市北区太融寺町8-8  
日進ビル11F ビデオモニター(株)内  
TEL.06-6455-0039 FAX.06-6455-0009

高知県ハング・パラグライディング連盟  
ホームページURL変更

<http://kochi-hpf.hp.infoseek.co.jp/>

JHFホームページをご利用ください

都道府県連盟(正会員)の連絡先はJHFのホームページに掲載しているリストをご覧ください。各連盟のホームページにリンクもしています。

常設委員会:安全性委員会のページにはセイフティーノーツを掲載。飛行機材の安全に関する重要な情報をぜひチェックしてください。

<http://jhf.skysports.or.jp/>

## 委員会の動き

### 安全性委員会

2月7日の臨時委員会において、2003年事故の報告がありました(以下3件)。

- ・1/13 埼玉県都幾川村での事故
- ・1/25 静岡県函南町での重大事故
- ・1/26 静岡県猪の頭での事故

猪の頭での事故で、再び空中衝突の可能性が指摘され、今後について検討した結果、「安全確保の協力を願います」とした文書を出す事を決定しました。

3月19日の委員会では、上記文書「安全管理についての要請」を受け、猪の頭エリアから安全対策の報告がありました。

- また、以下の検討・決定もしました。
- ・パラグライダー製造基準、輸入パラグライダー登録規程、プロトタイプ登録規程、輸入パラグライダー型式登録申請書、ハングライダー耐空性基準を見直し。
- ・補助動力パラグライダー暫定耐空性基準の廃止を決定。
- ・できるだけタイムリーに公表できるように、DHVセーフティノーツのドイツ語翻訳を外注することを決定。
- ・輸入パラグライダー登録規程の中で
  - 1) 取扱説明書は型式ごとに作成。
  - 2) 耐空性確認資料の中に、DHVホームページ内表示資料及びAFNOR/SHVのステッカーも有効と認める。
  - 3) 登録申請時に登録料振り込み済みを確認する資料を添付する。

[記:幸路尚文委員]

### 教習検定委員会

2003年度教員研修検定会について

今年度の教員研修検定会を11月に開催する予定で準備を進めます。開催要領は昨年と同様ですが、検定会の2~3ヶ月前に希望する助教員の方々に対象に研修会を開催する案が出ています。委員会ではこの案を推し進め、低迷する合格率(毎年50%以下)を高めると共に、優秀な教員の輩出を図りたいと考えます。このような事情から、今年度の教員研修検定会の案内は8月中旬頃までに出したいと思っております。

教員検定会や更新講習会の実施方法などについて、会員の皆様のご意見をお寄せください(JHF事務局まで)。

教員更新講習会の地方開催について

2003年度教員更新講習会の実施について、委員会では全国各地での開催を計画しています。各都道府県連盟正会員の皆様には、あらためて文書でお願いを差し上げますが、更新講習会の開催にご協力いただける正会員とエリアを募集する予定です。県連の会議等でご検討をいただくようお願いいたします。開催の回数は

検討中ですが、6~8箇所程度を考えています。 [記:小野寺久憲委員長]

### 制度委員会

未だに2名の委員会活動です。制度委員会は定員5名ですのであと3名の空席があります。全国のフライヤーのために一肌脱ごうという方の応募をお待ちしています。お問い合わせはJHF事務局まで。

#### 制度委員会の活動状況

- ・正会員に配布する「2003年度版JHF制度総覧」の編集会議を2月に行い、6月の総会に配布できるように準備を進めています。
- ・3月総会で審議された「定款改訂の必要性について」が決議され、定款を改定する方向で検討することになりました。本委員会としましては他の公益法人の定款の研究も含め、いかなる諮問にもお答えできるように準備を進めています。 [記:小林秀彰委員長]

### ハンググライディング競技委員会

XCシーズンも終盤へとさしかかりましたが、皆さんいかがお過ごしですか。

ハンググライディングシリーズ2003年シーズン第5戦は、4月26日~29日の「2003年スカイフェスティバルIN南陽ハンググライダー大会」第6戦は5月1日~4日の「第19回池田山スカイフェスティバル」の予定です。南陽大会では、クラス5(リジット)も併催。結果は随時速報の形でホームページにて発表する予定です。

ハンググライディングシリーズは2003年シーズンからGPS判定にしましたが、特に大きな混乱は見られませんでした。これから参加予定の方は2003年ルールブックをよく読んでルールをご理解の上、競技に参加してください。

また各大会でハンググライディングシリーズの現地登録を行っています。

当委員会の情報はホームページでお知らせしますので、よろしくお祈りします。

尚、事務局にメールをくだされば当委員会インフォメーションをお送りします。

HG競技委員会事務局

E-mail:haku@effect-jp.net

http://jhf.skysports.or.jp/HG/

[記:日下部はく委員長]

### パラグライディング競技委員会

この春はCooでのジャパンカップを伴うプレワールドカップと、9年ぶりに開催される、ワールドカップ茨城に大きな期待がかけられています。

平穏に過ぎていくコンペシーズンの活性化が期待できます。日本選手も40名ほどが出場されることになり、世界のトップ

選手とフライトできる機会が少ない選手の皆さんには大きな刺激となるでしょう。主催者の皆さんは大変だと思いますが、頑張ってください。あとは天候が味方になってくれることを望んでいます。ワールドカップには競技委員会として出番はないのですが、世界の選手の戦いは競技に携わるものとしてフライトするだけでなく世界大会の運営に携われることで今後に生かしていきたいと思っています。

(このレポートの発行時にはすでに終了していますが)日本選手の活躍に期待します。 [記:曾我部真人委員長]

### 補助動力委員会

現在、補助動力委員会はJHF活性化対策答申に呼応して、委員会の改革に着手しています。まずは一般フライヤーからの提言を元に、委員会としての立場の見直しから始めました。2002年度最後の定例委員会(3月5日)では、基本的な方向性を協議しましたが、今のところのように詳細を詰めるか想像の域を出ません。

補助動力委員会は、安全性委員会及び活性化対策委員会から「補助動力委員会の改革」に関する勧告を受けています。その提言要旨は十分理解できますが、根本的な意見の相違については反論を保留しています。

なにより全国補助動力フライヤーの支持に応える活動を推進しなければなりません。委員会としての自主的な改革は、活性化対策答申および安全性委員会勧告には合致しないものになるかも知れません。すべては一般フライヤーを含めた全国の愛好者諸氏の意向に沿った方向性を決断する所存です。

今年度の活動目標として第一に「MPGフライト手帳Vol 2発刊」を再検討しました。長期に亙り途絶えていたフライトルール・フライトマナーのアナウンスと、全国モーターフライト愛好者諸氏の連帯を目的とします。掲載内容はかなり刷新され、80%近くができて上がっています。補助動力教本に相当する「学科検定問題集120問」も掲載する予定です。発行は今秋10月上旬を目指し、MPGパイロット諸氏には無償配布を検討しています。

二番目としては、超軽動フライ・インに相当するフェスティバルイベントの開催です。フライトセミナーや教員講習検定会等のインドアイベントと、フリーフライトを軸とした実践フライト講習の実施を企画しています。詳細はJHFホームページ補助動力委員会サイトをご参照ください。

http://www.246.ne.jp/osa-mpg/

[記:山崎勇光委員長]

# 教員に最新情報を提供する。

## 教員更新講習会

この事業は、スポーツ振興くじ助成金を受けて実施しました。

3月12日・13日、栃木県のスカイパーク宇都宮で開催したJHF教員更新講習会について、実施にあたった教習検定委員会的小野寺久憲委員長に伺いました。

### 教員更新講習会とは？

JHFの技能証規程に、助教員技能証や教員技能証のように有効期限が定められている技能証については、JHFが特に規程を定めた場合、更新講習会を受講し、更新しなければならないと、定められています。

現在までJHFでは特に規程を定めていないことから、各都道府県連盟が申請者を推薦して更新の機会を与えてきました。申請を受けた都道府県連盟は、申請者が教員として適しているか否かを確認しなければならなかったのですが、実際には機能していない部分がありました。推薦する基準が各都道府県連盟に任されてきたために、判断基準がまちまちだったことが原因に挙げられます。

また、各都道府県連盟の行う行事に申請者が参加したか否かが推薦の判断基準になってきた一面もありましたが、これは、本来のやりかたではなく、また教員技能証を所持しない県連メンバーが、教員としての適正を判断することにも無理がありました。

近年の死亡事故の原因の多くが、パイロットの知識・技量不足にあり、それを指導する教員の知識レベルの差が大きいこ

とも挙げられます。JHFでは、教員が教員技能証を取得するまでのサポート態勢は整っていましたが、技能証取得後のサポート態勢が確立されていませんでした。以上の経緯により、教員更新講習会は、3年に一回の教員(助教員)技能証更新時に機体の情報や安全に関する情報をJHFの教習検定委員会が提供しようとしたものです。

しかし、各都道府県連盟が推薦するシステムに変わりは無く、JHF教習検定委員会としては、各都道府県連盟の応援・協力を受けながら、教員更新講習会を受講することを義務付けていきたいと考えています。

### 教員更新講習会の様子は？

教員更新講習会は今回が2回目です。参加人数は、前回の40名弱に対して19名と少なかったのですが、その分、密度の濃い、理想的な講習会ができ、参加者にも好評でした。

参加者からは、「もっとJHFと密接にコンタクトを取りたい」、「JHFの教員に対する相談窓口が明確でない」、「教員同士の横の繋がり、連絡網のようなシステムが欲しい」などの意見を頂きました。

### 全国の教員の皆さんへ

近年増えてきた死亡事故の原因の多くは、パイロットの知識不足、技量不足にあると思われます。ハンググライダー・パラグライダーの機体性能の向上が、パイ

ロットに対し、より高いレベルの知識・技量・判断力を求めるようになってきています。教員の皆さんは、それらの情報を貪欲に集め、自分自身の技量を高めるように努めてください。



ハンググライディング教員の山本貢さん。



京都の大澤さん。完璧なテイクオフ技術を研修。



実技研修する己の姿をVTRで確認。

## 滝知山(丹那)事故調査報告

JHF安全性委員会(2003年3月3日公表)

項目:パラグライダー飛行中の墜落事故

日付:2003年1月25日

場所:静岡県田方郡函南町滝知山

### 1. 事故の概要

カリプトエア型ベクティスMサイズ(パラグライダー、単座)は、2003年1月25日(土曜日)12時15分頃、レジャー飛行のため静岡県田方郡函南町滝知山から離陸し、2時間22分ほど飛行した。

14時42分頃、テイクオフ前方100m程の地点で片翼が潰れ(左右どちらかは不明)回復と同時に左翼が先行する形で右前方への激しい斜めシューティングが起りキャノピーがパイロットの下側に回りこむ状態となる。そこにパイロットが落下し左翼(テイクオフから見て)に接触、包まれる。その後キャノピーと身体は

分離したがパイロットはラインに絡まり、パイロットが下で上方向にキャノピーがなびくような形で約60m~70m落下。時間にして2~3秒で灌木の茂るテイクオフ前の斜面に激突した。

パイロットはレスキューパラシュートのグリップを握っていたが高度、時間共に余裕がなく開傘に至らなかった。

救急隊のヘリコプターにより病院に収容されたが、骨盤骨折、肺破裂などにより死亡した。

### 2. 飛行の経過

テイクオフ後は、同時間帯に飛行していた他機と同様、通常の飛行空域内において飛行をしていたものと思われる。特別に高度獲得、及び広範囲に飛行している証言は無い。

事故時もテイクオフ前方100m、テイクオフからの高度30m~50m付近を西風に正対あるいは偏流飛行をしていたと判断される。また何時でもトップランできる状況のなかでの飛行であったと判断される。

### 3. 原因

事故者はこの日のフライトまで、半年ほどのブランクがあった。パラグライディングを始めた当時は、頻繁にフライトに出かけたが、ここ数年はフライトする頻度が減っていたようである。

試乗機なので、その機体の特性を把握しきれていなかった。また、長時間のフライトに慣れていなかった。さらに潰れや失速の回避動作や回復操作の技術が未熟であったと考えられる。

## CIVL総会の報告

デレガート・JHF理事 田中美由喜

2月20日から22日まで、ルーマニアのシナイアにおいて2003年CIVL総会が開かれ、主に以下が検討されました。

2005年世界選手権の開催地  
パラグライダー：ブラジル(オベルナードルパラダレス)  
ハンググライダー：オーストラリア(ヘイ)

パラグライダー委員会  
1)大会ルール変更点 PWCの規則とコンセンサスをとる)  
パラスト:PWC2003ルール、33kgのルールを厳格にする。  
タスクトッピング:

Race to Goal:ゴールに1人のパイロットが到達 成立  
Speed run:ゴールに参加パイロットの20%が到達 成立  
今年の世界選手権前のWPRSランキングは、4ヶ月前のニュージーランドオープン大会結果も含む。

- 2)カテゴリー 1 大会(世界選手権・大陸選手権)出場資格 PWCの2/3上位者  
100kmのクロスカントリーフライト経験  
クロスカントリーフライト経験+大会参加経験  
とを満たすものは自動的に出場資格を得られる。  
と 条件を満たさない者は、全大会参加結果を提出し、CIVLの会長、セクレタリー、大会主催者の三者が審査する。  
\*今まで出場資格の一つであった、カテゴリー2大会の2/3上位者の条件がなくなりました。
- 3)2004年アジア選手権開催  
アジア選手権成立の条件を少なくとも3カ国の参加とする。現在参加が確実なのは韓国、日本、中国、台湾はFAIでは認められていないが2004年アジア選手権に限りこれを認める。
- 4)世界選手権シリアルクラスの設定  
昨年に続き検討の結果、将来何らかの対策は安全性の面

で考えられるべきだが、現時点では世界選手権でシリアルクラスを設けることは、否決された。  
ハンググライダー委員会  
昨年よりの変更はない。  
ディプロマ  
日本は山崎勇祐氏を推薦、全員一致で認められた。  
ワールドエアゲーム(WAG)  
2005年はPGアクロバティックPGアクロバティックの種目でWAGに参加する。しかしこの種目のみではアピールが不足するので、2004年2月までに新しい種目を構築する。  
CIVL理事会  
長い間CIVL副会長として活躍してきたアメリカのデニス・ベギン氏が引退、新しい会長・副会長は以下のとおり。  
会長:Olivier氏  
副会長:Aldridge(UK)Reonald( Rom )Torkelsen( Den )  
Koetsier( Netherlands )Zupanc( Aus )各氏

# 理 事 会 ダ イ ジ ェ ス ト

### 3月11日理事会

2003年3月11日(火)12時~13時 羽田空港ターミナルビル ビックバード 6階 キャラクシーホール 出席:朝日 和博、伊賀隆一郎、関谷暢人、瀬戸口裕郎、長谷川光雄、藤野光一、松永文也、宮川一郎各理事 宮川雅博監事 欠席:横尾和彦、田中美由喜、宮田富由各理事(出席理事8名、定足数を満たし成立)

議長:関谷暢人

審議1:「JHF役員選挙規程(案)」及び

「JHF運営規程(案)」の改訂について

2月13日開催文書理事会の結果では、賛成10、反対0、棄権0であった。採決の結果、賛成7、反対0、棄権0で可決された。

れた。これにより、標記規程・規約を来る6月通常総会に上程することとなった。

審議2:「JHF名義使用承認規程」の制定について

2月13日開催文書理事会の結果では、賛成7、反対0、棄権3であった。制度委員会委員長より確認修正された規程を決議することとした。採決の結果、賛成7、反対0、棄権0で可決された。

審議3:「FAI国際技能記章規程」の制定について

2月13日開催文書理事会の結果では、賛成8、反対1、棄権1であった。文書理事会より申請料・消費税などに関する表現方法を一部修正された規程を決議することとした。採決の結果、賛成7、反対0、棄権0で可決された。

審議4:「JAPHE2003」への協賛承認について

2月25日開催文書理事会の結果では、賛成9票、反対1、棄権1であった。採決の結果、賛成7、反対0、棄権0で可決された。

審議5:「教員更新講習会」の開催承認について

これは既に事業計画にあげられている事業であること、補助金対象事業であり、今年度の開催を要することから、時間の関係上、常任理事会にて決定し、理事会で追認することとなった。尚、「受講義務付け」について誤認誤解が発生したため、教員検定委員会と合同で関係者にフォローすることとした。採決の結果、賛成7、反対0、棄権0で可決された。

## 理 事 活 動 報 告

JHFの理事は、それぞれが担当する事業が滞りなく進行するよう、さまざまな仕事をしている。  
1月下旬から3月下旬までの活動内容を各理事に報告してもらおう。

### 会長 朝日 和博

ご存知の通り名誉会長の渡邊敏久氏が故人となられました。故人は自然の力を体全体で感じながら飛び、所謂ハンググライダーというスカイスポーツを、その創成期より現在に至るまで育てていただきました。故人のご遺徳に感謝の念を捧げ、それにお応えしていきたいと思っております。  
理事会は3月総会に焦点を置いて業務を進めてまいりました。また、都道府県連盟に事業費の仮払いをいたしました。是非有効に使っていただきたいと思っております。

総会では新役員が決まりました。今後は6月総会に向けて進めていただきたいと思います。特に、活性化対策委員会の答申を受けて解決すべき問題が多く残っております。この後は前年度の決算業務を通じて今後の方向も検討していくこととなります。

最後に、なによりも事故防止を第一とすることを全てのフライヤーが努力していかなければならないと思っております。  
常任理事 関谷 暢人

気のせいかもしれませんが、業務量が増加してくる。JHFとしてやらなければならないことばかりであり、結果として、愛好者並びに国民に対する普及振興につながる事となる。各詳細説明は紙面上難しいが、今後のJHFレポートやホームページをご覧になり、裏方作業をイメージしていただければ幸いです。

1月21日:スポーツ基金ヒヤリング

22日:活性化対策委員会

23日:理事会

2月6日:榛名町自衛隊駐屯地訪問

10日:保険会社打合せ

24日:制度委員会

26日:スカイレジャージャパン会議

3月2日:北海道連盟「安全講習会」

5日:補助動力委員会

7・8日:故渡邊敏久名誉会長の通夜・告別式に列席

10日:常任理事会

11日:JHF3月通常総会

14日:航空スポーツ連絡会&スカイスポーツシンポジウム委員会

17日:文部科学省主催「スポーツコーチサミット」

### 常任理事 長谷川 光雄

日本航空協会主催の航空スポーツ教室の第1回目が2月8日に群馬県昭和村小学校で、また第2回目が3月8日に東京都中野区若宮小学校で開催され、私はパラグライダーの担当として参加しました(13ページに報告を掲載)。

続いて3月12日・13日、栃木県スカイパーク宇都宮において実施したJHF主催の教員更新講習会に、教員検定委員会担当理事として参加しました。参加教員はベテラン揃いで、多数の方々は大変より参加され教育に熱心であることに感心しました。この講習会の主たる目的は、フライト事故防止、年々進歩しているフライト機材、またDHVをはじめとする海外の最新情報を伝達すると同時に、それらに基づいての教習シラバスの実施、また教員同士の情報交換の場等、スク・リング活動を行うにあたり、最新の知識、技術及び高い能力を持つ教育活動を支援することにあります。参加教員全員が新しい情報及び技術を習得し、好評裡に無事終了しました。

最後に私事で恐縮ですが、JHF常任理事に就任して以来、理事会(無遅刻無欠席)及びその他の活動も無事に進行することができました。これも一重に47都道府県連盟正会員の皆様をはじめ理事会、各委員会、事務局及びフライヤーの皆様のご協力、ご支援の賜物と深く感謝しております。  
この度、任期満了にて退任するにあたり厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

理事 伊賀 隆一郎

3月4日~6日に和歌山県紀ノ川フライトパークに於いて開催された、第7回学生ハンググライダー選手権の開会式と閉会式に、朝日会長の代理として出席。表彰を行い、2002年度HG学生リーグの優勝チームとなったEPQ(日大理工学部)に真紅の優勝旗を授けました。

多くの若者の活気あるフライトを目の当たりにして、今後のJHF活動にも意を強くしました。

理事 藤野 光一

3月は、理事会、JHF3月総会に出席いたしました。総会では、役員選挙が行われ、新しい理事の方6名が正会員のみなさまに信任されました。私を含めた旧役員は、3月総会で辞任となりました。

2年弱と短い任期ではありましたが、みなさまに叱咤激

励され有給休暇を消化しながら活動を続けてまいりましたが、今回で理事職を退かせていただくことといたしました。何の結果も残せず、正直なところ残念な気持ちもありますが、ご容赦いただきたいと思います。

在任中、ご指導賜りました多くのフライヤーの方々に御礼申し上げます。私の最後のご報告とさせていただきます。

理事 松永 文也

このレポートが出る頃には理事の任期を終了してはいますが、おかげさまでぎりぎり一杯、JHF白書(活動実績)を発行する事ができました。白書の発行は、その組織の現状、在り方、そして未来を各年度において記述していき、組織の歴史を積み重ねていく行為です。今後とも継続していくことを、今後の役員に強く希望します。

これが最後の理事活動報告になりますが、いろいろな形で理事活動にご協力をいただいた皆さまに、この場を借りてご挨拶させていただきます。4年間のご協力本当にありがとうございました。

理事 宮川 一郎

私は当初、教員検定委員会と広報出版部のサブ担当でしたが、ほとんど活動報告をできずまいりました。その理由は、担当が決まって間もなく、JHFが抱える訴訟に関して、弁護人との連絡役を兼ねることとなったからです。原告诉被告という民事の対立状態が続いているので、当方の動きを逐一公表するのが憚られたのです。しかし、その内容を秘匿する趣旨ではなく、任期中に開催された理事会全てに出席し、速やかに報告し、その後の対応も理事会決議に基づき素々と進めて参りました。その内容は議事録に残し、詳細な訴訟記録等は事務局でファイルしてありますし、裁判所でも閲覧できます。ともかく2ヶ月に一度ほどの東京地裁通いがあり、その前後の弁護人との打ち合わせ、さらに途中での弁護人の交代があるなど、ほとんど専任状態でした。

理事 宮田 富由

普及推進室では、各都道府県連盟の支援活動として、体験会実施にともなう助成金の交付について現在申請のありました各連盟の助成金の交付額を決定しております。近日中に理事会に提出し、その後に申請のありました各県連に助成金を交付いたしますのでもう少しお待ちください。

2003年度もよろしくお願いたします。

# @sky

空の情報いろいろありのページ、その名もアット・スカイ。  
 いつでも心は空の彼方というあなた、必読!  
 もちろん寄稿も大歓迎。  
 大会報告、エリア紹介、フライト自慢、名物フライヤー紹介、  
 JHFへの意見など、どしどし送ってください。  
 koho@jhf.skysports.or.jp FAX.03-5840-8312

相馬原管制圏  
 (社)日本航空機操縦士協会発行  
 区分航空図「関東・甲信越」より



## 航空交通管制区・管制圏に注意!

陸上自衛隊相馬原駐屯地司令業務室の情報によると、訓練中のヘリコプターパイロットから、パラグライダー及びエンジン付パラグライダーと数度ニアミスしたことがあると報告がありました。いつものエリア周辺はもちろんクロスカントリー飛行を計画する際も、航空交通管制区及び航空交通管制圏をしっかりと確認してください。

以下は、比較的最近に設置された航空交通管制区と航空交通管制圏です(「官報」の告示より抜粋)

国土交通省告示第136号

平成13年2月22日

・美保飛行場の項に次のように加える。

舞鶴飛行場：舞鶴市長浜航空自衛隊舞鶴基地  
 舞鶴管制圏

舞鶴飛行場の標点(北緯35度29分 東経135度23分)を中心とする半径7kmの円内の区域の直上空域で高度1,200m以下のもの。

国土交通省告示第1396号

平成13年9月6日

・宇都宮飛行場の項に次のように加える。

相馬原飛行場：群馬県北群馬郡榛東村  
 (榛山山の麓)陸上自衛隊相馬原駐屯地  
 相馬原管制圏

相馬原飛行場の標点(北緯36度26分 東経138度57分)を中心とする半径9kmの円内の区域のうち、当該標点から真方位350度の方向へのびる直線の西側にあり、かつ、同地点から真方位270度の方向へのびる直線より北側にあるもののうち当該標点を中心とする半径5kmの円の外側にある区域を除いたものの直上空域で高度1,200m以下のもの。

・岐阜飛行場の項を次のように改める。  
 岐阜飛行場：岐阜県各務ヶ原市  
 航空自衛隊岐阜基地

岐阜管制圏

岐阜飛行場の標点(北緯35度23分 東経136度52分)を中心とする半径9kmの円内の区域(名古屋空港の標点(北緯35度15分 東経136度56分)を中心とする半径9kmの円内にあるものを除く)の直上空域で高度1,850m以下のもの。

## 航空スポーツ教室でパラグライディング体験

子どもたちに空の魅力を知ってもらおうと(財)日本航空協会が「航空スポーツ教室」を開設しました。対象は小学校高学年・中学生。年に6回、1教室あたり20~50名がスカイスポーツを体験する予定です。JHFはパラグライディング教室担当として参加。第1回目と第2回目の様子を、担当の長谷川光雄常任理事(当時)に報告してもらいました。

航空スポーツ教室の第1回目が、2月8日(土)に群馬県昭和村の東小学校で開催されました。

当日はパラグライダーをはじめ、熱気球、模型飛行機、紙飛行機の4教室がひらかれました。私はスタッフの斎藤氏・鈴木氏と共に早朝東京駅発で現地に向い、現地で応援スタッフ5名と合流。早速打合せをし、スタッフには実技体験の準備をしてもらいまし



第1回。教室で挨拶する長谷川講師(左から2人目)

た。私は学科教室の準備に取りかかり、午前10時には、教育長の挨拶、航空協会関係者の挨拶、講師紹介後、学科の講習に入りました。

学科講習では、主としてパラグライダーの材質、構造、そして飛行原理の航空力学(流体力学)を小学生にもわかるようにやさしく解説しました。

すぐに理解できる生徒も多いものの、なかなか理解できない生徒には質問を受け付け、わかってくれるまで種々例を取り上げて説明して、全員に理解してもらえるように努力しました。中には高度な質問をする生徒もあり、とてもやりがいがありました。講義の終了後、説明しながらビデオを見てもらい、約1時間30分で学科教室を終了しました。

午後はパラグライダー体験を行いました。使用したグライダーは「ジャスパラ」と言って、スポーツ教室の練習用に日本航空協会が特別に製作にあたった機体です。SサイズとLサイズがあり、2機使用する予定でしたが、朝まで残雪があり雪解けで足場が悪いので、ライズアップの場所を選んでスタッフ全員が1機に掛かりきりで安全を期して行いました。

参加の生徒全員に2回ずつ体験してもらい、1m位の高度で滑空を楽しんでいただきました。生徒全員の終了後、保護者の方から



第2回。校庭で参加生徒全員が滑空を体験した。

の体験の要望があったため、代表して女性2名に体験をしていただきました。

最後に全員にアンケートを記入していただき、講師の私より航空協会からの終了証とバッジを授与後、解散となりました。

アンケートのなかで「次にやってみたいスカイスポーツ」にパラグライダー希望者が多数を占めていたことが嬉しく、今までの苦労も全て吹き飛んで清しい気持ちで帰路につきました。

第2回は3月8日(土)に東京都中野区の若宮小学校で実施されました。当日は強風のため熱気球は中止し、パラグライダーも中止の予定でしたが、生徒の希望が多かったので、指導員が全員ベテラン揃いであったこともあり、全員が1機に掛かり安全第一で細心の注意を払って行いました。参加生徒全員が滑空を体験して無事終了。PTA会長も滑空を体験され大変喜ばれました。その後アンケートをとり終了しました。



# 大会報告

2003ハンググライダー関西選手権  
2月8日～11日  
和歌山県那賀郡紀ノ川フライトパーク

- [総合]
- 1位 大沼 浩 茨城県 1024点
  - 1位 永光 秀明 千葉県 1024点
  - 3位 大門 浩二 茨城県 1015点
  - 4位 外村 仁克 大阪府 998点
  - 5位 川瀬 力 鳥取県 996点
  - 6位 松村 貴博 鳥取県 995点

[女子]

- 1位 岡田 明子 静岡県 960点

全体的には渋いコンディションの大会となった。今年より、記録方式がGPSだけとなり、この大会で第3戦目となったが、選手にとっては負担が軽減され、フライト自体に専念できたようだ。しかしGPS独自の欠点が新たに出現した大会でもあった。

大会は2日目、3日目が競技成立となった。初日、距離を稼いだ大沼に、永光が追いつき、1位2名という結果で終わった。

[記:宮浦 博之]

冬季サルオブサルズ2003 in 足尾  
2月25日・26日  
茨城県八郷町足尾山エリア

- [総合]
- 1位 田中 元気 日大EPO 1000.0点
  - 2位 内田 健 法政大A・HOSEI 976.2点
  - 3位 西村 豪 日大EPO 738.1点
  - 4位 石田 武司 日大EPO 719.7点
  - 5位 旗裕 裕亮 東海大ANIMALS 595.1点
  - 6位 仲里 容子 東大FALSADA 524.8点

[女子]

- 1位 仲里 容子 東大FALSADA 524.8点

学生2nd.リーグ最終戦。全国から21名参加。25日は残雪と強風でキャンセル。26日は力を合わせ道路の雪掻きをしたがいあ

て、競技成立。みごとボスザルの称号を勝ち取ったのは、日大理工1年の田中元気。2nd.リーグ年間優勝は日大理工2年の石田武司であった。 [報告:佐藤 史宏]

第7回学生HG選手権 in 紀ノ川  
3月4日～6日  
和歌山県那賀郡紀ノ川フライトパーク



- [総合]
- 1位 加藤 実 東海大ANIMALS 1000.0点
  - 2位 永光 秀明 日大EPO 925.8点
  - 3位 津田 英直 東大FALSADA 790.0点
  - 4位 佐藤 史宏 日大EPO 744.1点
  - 5位 伊藤 宙陸 千葉大AIOLOS 721.8点
  - 6位 寺本 隆志 京大ZEPHYR 718.5点

[女子]

- 1位 松浦 彩乃 山口大SKYDUST 514.2点

初日は雪が降りそうな天候にキャンセル。3日は晴れたが上がる気配のない空に21.9kmのショートタスクを設定。ところが飛んでみると1000mまで楽勝で上がる好コンディションで、38名中23名がゴールするスピードレースに。38分台から2時間弱まで、実力を反映するいい競技ができた。初ゴールに喜ぶ選手も多数おり、大会側としては大成功だと思った。6日は雨の予報でキャンセル。メーカーの方々にセミナーを開いていただいた。 [報告:野口 和基]

2003板敷スプリングフライト  
3月19日～23日  
茨城県八郷町板敷山エリア

- [総合]
- 1位 今嶋 功 鳥取県 2724点

- 2位 鈴木 博司 岐阜県 2723点
- 3位 大沼 浩 茨城県 2572点
- 4位 板垣 直樹 茨城県 2266点
- 5位 安東 正夫 東京都 2230点
- 6位 山本 貢 茨城県 2208点

[女子]

- 1位 谷古宇瑞子 栃木県 1315点

初日は54.3kmタスクで今嶋・安東の2名がゴール。20日は大沼をはじめ8名ゴール。21日、黒羽まで62.7kmのストレートゴールで22名ゴール。22日はキャンセル。最終日、黒羽・鳥山ゴールの86.6kmタスクを設定。16名がゴールし、スプリングフライトらしい競技で締め括った。 [報告:日下部 はく]

Paraglider Student Festival 2003 in 足尾  
3月18日～21日  
茨城県八郷町足尾山エリア

Gリーグ最終戦。全国から学生が集結したが、強風のため競技キャンセル。グラハン大会と2nd.リーグターゲット大会を行った。ターゲット1位は阪大P.F.C.の横秀樹選手。

[報告:藪 友貴]

2003ジャパンカップCoo  
3月21日・22日  
茨城県八郷町エアーパークCoo

- [総合]
- 1位 吉川 正雄 兵庫県 1000点
  - 2位 KELLER Peter ドイツ 921点
  - 3位 SZAFARYN Lein アメリカ 876点
  - 4位 SWAN Ryan アメリカ 826点
  - 5位 岩瀬 茂寛 愛知県 816点
  - 5位 若山 朋晴 静岡県 816点
  - 5位 柏倉 剛 山形県 816点

21日は快晴。PWC選手も加わって華やかに開幕。条件もよく、八郷町を一周するタスクに。町役場のゴールに到達したのは吉川選手ただ一人。22日は強風の予想がありキャンセル。 [報告:神山 和子]

# カレンダー

場は開催地、運は連絡先です。予定は変更になる場合がありますので、お出かけの際は事前に必ずご確認ください。

2003スカイフェスティバル  
IN 南陽ハンググライダー大会  
4月26日～29日 場山形県南陽スカイパーク  
運高橋 明 TEL.090-3645-1545  
E-mail:birdup@ic-net.or.jp  
池田山スカイフェスティバル(HG)  
5月1日～4日 場岐阜県揖斐郡池田町池田山フライトエリア  
運山城友幸 TEL.058-248-2495  
E-mail:sky1130@mba.sphere.ne.jp  
2003 Japan Cup 立山(PG)  
5月3日～5日 場富山県上新川郡大山町らいちょうパレスキー場 運大会実行委員

会(エアロタクト内) TEL.03-3608-8626  
第15回ゼロカップ(PG)  
5月17日・18日 場鳥取県八頭郡河原町霊石山フライトエリア 運株 元口  
TEL.072-753-8890 FAX.072-753-8830  
E-mail:info@zero-para.co.jp  
鳴倉カップ(PG)  
5月24日・25日 場新潟県北魚沼郡小出町鳴倉山 運大会実行委員会 南雲昌孝  
TEL&FAX.02579-2-7837  
E-mail:mmym@niigata-koide.com  
2003パラグライダー尾神カップ  
5月31日・6月1日 場新潟県尾神岳

5月

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
			1	2	3 連休3日目	4
5 子供の日	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6月

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24	25	26	27	28	29

運大会実行委員会 吉川町役場産業課  
TEL.0255-48-2311  
2003年度JHF6月通常総会  
6月21日 場東京都港区新橋航空会館  
JHF事務局 TEL.03-5840-8311

新連載  
**ファインダー  
 の向こうに**  
 1  
 込山 茂

暫くの間、このコラムを任されることになりました。私がフライトを通じて撮った写真について、拙い文章で思うところを勝手気ままに述べさせていただきます。お付き合いの程、よろしくお願いします。

私は光学機器メーカーに勤めておりますが写真については素人で、35mmのコンパクトカメラを持っていたものの、意識して「撮る」ということはしていませんでした。数年前にデジタルカメラが普及しはじめた頃からです、デジカメを入手して飛行中に写真を撮るようになったのは。

一般にシャッターが下りるまでの時間が掛かるコンパクトデジカメは、ここぞというタイミングを逃すことが多く、自分も動きながら、しかも相手も動くフライト中の撮影では、その調整が結構大変でした。半年ほど前にデジタル一眼レフを思い切って購入してからは、撮影することがとても楽しくなりました。シャッターの切れるタイミングがほぼ狙った時に合うようになったからです。風を切ることに加えて、シャッターを切る快感を知ったことが、新たな楽しみ



になりました。

さて、やっと本題。今回の写真は私のホームエリアのひとつである、松田山での撮影です。被写体は松永文也氏です。最近はカイトセイリングをもっぱらされているそうで、ほぼ1年振りの彼のフライトにご一緒する機会を得たわけです。

私が空中撮影している事は近くを飛ぶ彼には直ぐに解った様で、カメラを向けると撮影に協力してくれました。雑誌の取材や投稿を多くこなした被写体になることにも慣れているのでしょうか、こちらとの距離を測りながら飛んでくれました。しかしながら出来上がりの写真が普通「ちょっと逆光気味で空が白飛びしています」なのは、松永氏の協力と機材性能を活かしていない私の腕

のせいです。

この日は穏やかな条件で、ブレイクコードから両手を離しての撮影も楽でした。何時もこんなだと余裕ある撮影が出来るのですが、もっとも構図や露出などはそれほど気に掛けていない(余裕も無い!)ので、今後の課題です。何時も撮れたなりにってしまうので、狙った撮影をするように心がけたいですね。

込山 茂 (こみやま しげる)

毎週末、天気さえ良ければ丹沢や松田、その他飛べるエリアに出没するパラジャンキー。コンベには出ないサンデーフライヤーだがXCフライトは100Kmオーバーも記録する。飛び始めて早16年以上経つ。

## 学連だよ!全員集合!!

こんにちは。新年度を迎えて新入部員の獲得状況はいかがですか。ハングやパラの普及のためにも多くの新入生を勧誘しましょう。

今回の特集は3月に行われた学連総会で話し合われたことについてです。

今回の学連総会はハング学生選手権の後の3月6日、7日に全国の各地区学連の代表が集まって行われました。総会での主な議題は以下の通りです。

### 1. 日本学連の役割分担

理事長には野口和基(関西HG4年)を副理事長には永光秀明(関東HG4年)を選任し、その他の各代表者についてもそれぞれ役割を決定しました。

### 2. 学生リーグ

今年度の学生リーグの開催地の決定や学生リーグのルール変更について話し合われました。学生リーグについてはJHFレポート次号で詳しく取り上げるつもりです。

### 3. 学連費

学連費の集め方についても話し合われました。サークルごとに払っているところもあるかもしれませんが、学連に加盟している学生フライヤーには、日本学連の運営のため一人500円の学連費を負担してもらっ

ています。しかし新入生の入部がはっきりしないと、学連費を集めるのが遅くなってしまふという問題がありました。そこで今年度は5月中に入部したばかりの人を除いた2年生以上の分の学連費とその名簿を集めてしまおうということになりました。5月中に集められるよう協力をお願いします。

続いては、毎回各地区の代表の人に書いてもらっている紹介のコーナーです。今回は関西PG学連です。

関西の学生フライヤーが活動するエリアといえば、夏合宿の鳥取砂丘や霊石山、昨年度のHG学選が行われた龍門山が有名ですが、今回は福井県立大学のサークルが活動しているスキージャンプ勝山を紹介します。スキージャンプ勝山はその名のとおりに冬はスキー場として使われているため飛ぶことはできないのですが、今号が届くころにはパラが飛べるようになるのではないのでしょうか。学生が集まるイベントでは、2001年にPGの学選を開催しました。

学連への連絡は.....

「学連に加盟したい!!」や「もっと詳しく学連のことを教えてほしい」やその他学連への応援・苦情は下記まで。

別田義典(福井県立大学4年)

Eメール:s0012088@s.fpu.ac.jp

## 社会人の方へお願い!

一般の大会においてカメラによる判定からGPSによる判定に移行していくなかで、学生の大会でもGPSによる判定を利用した大会に少しずつ移行していこうと考えています。しかし、そうするとGPSを持っていない学生は参加できないということになってしまいます。そのため日本学生フライヤー連盟がいくつかGPSを持ち、必要があれば貸し出しをするという態勢ができればと考えています。

そこで、使っていないGPSを学連に譲っていただけませんか。学生パイロットの競技レベル向上のためご協力ください。

ただし、JHF競技委員会のホームページの「使用可能なGPS」に掲載されている機種でお願いします。連絡先は以下のメールアドレスをお願いします。

佐藤 史宏(関東HG3年)

fu-min.blueskyhunter.6-15

@m5.dion.ne.jp



## 空のおお

その49

### 吉海 奈美さん

(よしかい なみ)



数年前、通っていたスキー場で夏場にパラグライダーを見たのがきっかけ。しばらくして伊豆のパラフィールドでフライト体験しました。非常にコンディションがよく「こんなに簡単に飛べるんだ」と感激。すぐに講習を受け、それ以来、思いっきりパラにはまってしまいました。去年は会社を辞め、1年間パラ生活にどっぷり浸かることができて幸せだったそうです。今年の2月にパイロット証を取得。「去年飛びまくったおかげで、運動オンチな私でもP証が無事にとれました」とのこと。これを機に、四国をはじめ、ヨーロッパなどいろいろなところへ飛びに行きたい吉海さん、「これからもう一生パラを続けていきたい」とも。

素晴らしいフライトができるよう、健康に気をつけて頑張ってください。

## 連絡ノート JHF フライヤー

### JHF活動実績2001年版完成

長い間発行を中断していた白書「JHF活動実績」の2001年版ができました。連盟の活動内容、フライヤー登録や技能証発行の数、選手権結果等を掲載しています。ご希望の方は事務局にお申し込みください。

A4サイズ、64ページ。送料込みの頒布価格500円。

### 2003年度6月総会の傍聴について

6月21日(土)午後1時から5時まで、東京都港区新橋の航空会館会議室で、2003年度6月通常総会を開催します。傍聴を希望される方は、JHFホームページから申し込み書をダウンロードして郵送してください。

### 制度委員募集中

JHF常設委員会のひとつ、制度委員会の委員を募集しています。現在、制度委員会は僅

か2人で活動中。ぜひあなたの力を貸してください。ご連絡は事務局まで。

### 氏名・住所等が変わったら

お名前やご住所が変わったら、すぐ事務局にお知らせください。ご連絡がないと、JHFレポートをお届けできません。変更届けはJHFホームページからでもできますので、活用してください。

### 会員証やレポート等が届かない場合

最近、郵便事故や会員側の問題(方が抜けているなど住所が不完全)で、会員証やJHFレポートが届かないというトラブルが少なくありません。届くはずのものが届かない場合は、早めに事務局にご連絡ください。

特にフライヤー会員証は、発行から3ヶ月以降は再発行料金を申し受けます。フライヤー会員登録の更新の際、会費を払い込んでから2週間経ってもお手元に会員証が郵送されない場合は、速やかにご連絡ください。

### JHF事務局

TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312

(電話は月～金曜日の9:30～17:30に)

E-mail:jhf@skysports.or.jp

### 2月・3月のパイロット証取得者

(敬称略 数字は認定日)

#### パラグライディング

2/3 小島 聖子  
2/7 須藤 博  
2/7 浅井 春巳  
2/7 上田 明浩  
2/14 菅沼江菜美  
2/14 松田 正介  
2/14 西村 聖子  
2/14 佐藤 利治  
2/14 福岡ミズ  
2/21 門間 勝  
2/21 高橋 康紀  
2/21 斉藤 勝則  
2/21 柴田 慶子

2/21 高柴 秀夫  
2/24 安福 繁  
2/24 吉海 奈美  
2/24 脇屋 次男  
2/24 丹生 隆之  
2/24 笹川 竜二  
2/28 仲野 哲也  
3/3 神戸 進  
3/3 薩山 和夫  
3/3 柴崎 真一  
3/3 伊藤 晴夫  
3/3 加藤 靖裕  
3/3 高橋 周之

3/3 吉新 初男  
3/5 島袋 良夫  
3/7 西元 勝規  
3/11 江刺 理子  
3/12 板垣 健  
3/12 高濱 雅一  
3/14 有川宗太郎  
3/14 藤山 明美  
3/14 藤下 雅浩  
3/17 山本 謙一  
3/17 服部 晴児  
3/17 岡本 洋子  
3/17 岡本 泰治

3/19 佐々木伸二  
3/24 木村 義一  
3/24 宇田賀康成  
3/24 高倍 昭治  
3/24 兵頭 徹  
3/26 西村 安代  
3/26 内田 雄一  
3/26 中間 稔  
3/28 中辻 勇志  
3/28 坂田 佳織  
3/31 森川 恵美  
3/31 鍵屋 茂  
3/31 長井 朗

#### ハンググライディング

2/28 浪江 泰介  
2/28 高城 明彦  
3/5 田中 敬久  
3/5 田中 里奈  
3/5 横山 雄策  
3/10 宮崎 裕輔  
3/24 豊田 和朗  
3/28 近藤 義貴  
3/31 木全留美子

### スクール登録 [新規登録校]

登録No.108 浜名湖パラグライダースクール PG/MPG

http://www.jpmsports.com info@jpmsports.com

〒431-1407 静岡県引佐郡三ヶ日町大谷93-1 TEL.053-526-0015 FAX.053-526-0141

登録No.109 MAPSスカイスポーツスクール室根校・遠野校 HG/PG/MPG

http://www1.ocn.ne.jp/maps/ maps@coral.ocn.ne.jp

〒029-1201 岩手県東磐井郡室根村折壁字大里194-1 TEL.0191-64-3081 FAX.0191-64-3198

登録No.110 琵琶湖アドベンチャースポーツクラブパラグライダースクール PG

http://www.biwa.ne.jp/adventur adventur@mx.biwa.ne.jp

〒520-0523 滋賀県滋賀郡滋賀町和迎南浜334-1 TEL.090-1487-9706 FAX.077-594-8530

### 3月31日までのフライヤー会員登録数

登録年数	1月31日現在の有効登録数	2月の登録数	3月の登録数	3月31日現在の有効登録数
1年		209	356	
3年		191	290	
合計	20,362	400	646	19,864

2月・3月の技能証発行数 ( )内の数字は発行数中の女性の人数です。

技能証種類	ハンググライディング			パラグライディング			
	2月の発行数	3月の発行数	3月31日までの発行数累計	技能証種類	2月の発行数	3月の発行数	3月31日までの発行数累計
A証	2(0)	14(5)	12,255	A証	54(16)	34(11)	48,264
B証	2(0)	14(5)	11,827	B証	38(7)	41(17)	43,216
C証	1(0)	2(0)	7,098	NP証	27(5)	24(7)	11,140
P証	2(0)	7(2)	5,037	P証	20(7)	32(6)	20,200
補助動力証	0	2(0)	31	補助動力証	0	0	866
XC証	2(0)	1(0)	1,213	XC証	9(0)	7(1)	4,228
タンデム証	0	0	48	タンデム証	2(0)	7(0)	815
モーターパラグライディング							
				P証	3(0)	4(0)	212

\*訂正:( )内の数字は発行数中の女性の人数です。

### 編集を終えて

茨城でのPWCを観戦して、もっと飛ばしたい、もっとうまくなりたいと思った人はたくさんいるでしょう。その気持ちを大切に、一段一段ステップアップしてください。JHFレポートはいつもあなたを応援しています。 JHF広報出版部

### JHFホームページもご覧ください。

http://jhf.skysports.or.jp/

i-MODE(NTT DoCoMo) http://jhf.skysports.or.jp/mobil/i/index.html  
J-SKY(J-PHONE) http://jhf.skysports.or.jp/mobil/j/index.htm  
EZweb(au DIGITAL) au cdmaOne(TU-KA) http://www.d2.dion.ne.jp/haku/jhf/ez/index.wml

### JHFレポート5・6月号(No.177)

発行日 2003年4月20日 定価10円  
発行 (社)日本ハンググライディング連盟  
〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11春日Shimaビル8階  
TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312  
E-mail:jhf@skysports.or.jp

編集 JHF事務局広報出版部  
印刷 日本印刷(株)

この印刷物は再生紙を使用しています。